

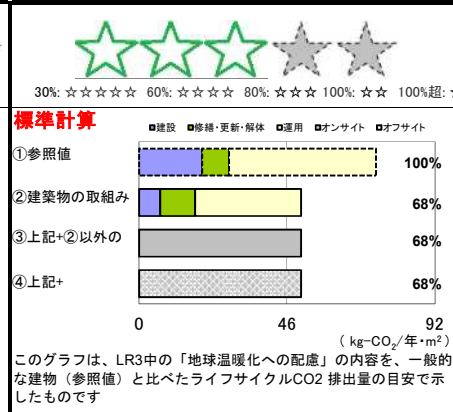
川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24024

建築物名称	(仮称)新丸子計画新築工事
建築主	野村不動産株式会社 住宅事業本部 神奈川事業部長 阿部 裕介
建築物の所在地	川崎市中原区上丸子天神町67
設計者氏名、建築士事務所名	谷口 裕一 株式会社IAO竹田設計 東京第一事務所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,840.53㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和8年4月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

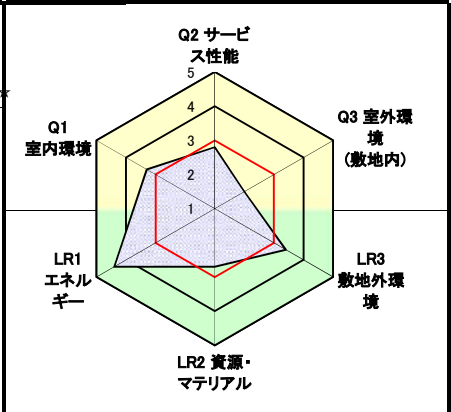
評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観	24024
建物名称	(仮称)新丸子計画 新築工事	階数	地上5F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	神奈川県川崎市中原区上丸子天神町67	構造	RC造		
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	150 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2026年4月 予定	評価の実施日	2024年7月2日		
敷地面積	1,711 m ²	作成者	一級建築士事務所 株式会社IAO竹田設計 東京第一事務所 谷口 裕一		
建築面積	1,043 m ²	確認日	2024年7月2日		
延床面積	3,841 m ²	確認者	一級建築士事務所 株式会社IAO竹田設計 東京第一事務所 谷口 裕一		

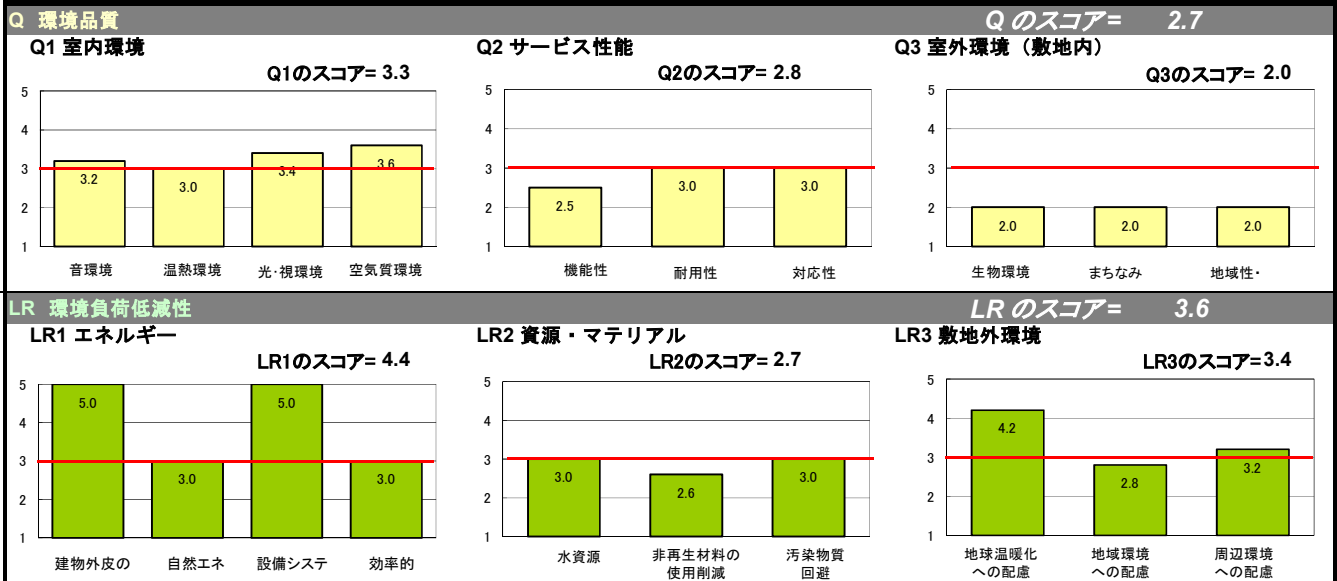
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

(仮称)新丸子計画 新築工事

24024

重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目		各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)			Gの平均点	2.5
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準を満たしている 植栽により良好な景観を形成している 緑被率、水被率、中・高木の合計水平投影面積率15.52%	1.7/4.3	2.0
LR-3	■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照、地表面対策面積率20.74%	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)			Wの平均点	3.2
Q-1	■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	レースカーテンとバルコニーで昼光制御	4.5/5.7	3.9
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準を満たしている 緑被率、水被率、中・高木の合計水平投影面積率15.52%	0.9/2.3	2.0
LR-1	■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等性能等級4を超える性能 BEI=0.64	4.4/5.0	4.4
LR-2	■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.6/4.7	2.7
LR-3	■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)			Rの平均点	3.1
Q-2	■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.5
LR-2	■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減		2.2/4.0	2.7
LR-3	■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)			Hの平均点	3.1
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準を満たしている 緑被率、水被率、中・高木の合計水平投影面積率15.52%	0.9/2.3	2.0
LR-1	■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等性能等級4を超える性能 BEI=0.64	4.4/5.0	4.4
LR-3	■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照、地表面対策面積率20.74%	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 3.1

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。			
建設段階				
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数			0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階				
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー				
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等性能等級4を超える性能 BEI=0.64		4.4/5.0	4.4

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
		G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質											2.7
Q1 室内環境							0.40		-		3.3
1 音環境							3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル						—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音							3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能						専有部:T-2	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						—	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						—	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						—	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						—	-	-	-	-	
2 温熱環境							2.6	0.35	3.1	1.00	3.0
2.1 室温制御							3.0	0.50	4.0	0.71	
1 室温						—	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能						専有部分:断熱等性能等級4	3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御						—	1.0	0.20	1.0	0.29	
2.3 空調方式						—	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境							2.3	0.25	3.7	1.00	3.4
3.1 昼光利用							1.8	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率						専有部分:2.0%以上(Aタイプ)	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口						—	-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備						—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策							2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御						レースカーテンとバルコニー(庇)で昼光制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						—	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						—	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境							3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策							4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質						F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気							3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量						—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						—	-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						—	-	-	-	-	
2 喫煙の制御						—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能							—	0.30	-	-	2.8
1 機能性							2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性						—	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						—	-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画						—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性							1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観						—	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						—	-	-	-	-	
3 内装計画						—	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理							3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性							3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振							3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数							3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						住宅性能評価における劣化対策等級3	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						—	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						—	2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						給水:PEP(B)、汚水、雑排水:VP(B)	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						—	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性							2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						—	1.0	0.20	-	-	
3 電気設備						—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						—	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.0	0.30	3.1	1.00	3.0	
	3.1 空間のゆとり									-	-	3.2	0.50		
	1	階高のゆとり							階高: 2.90m以上	-	-	4.0	0.60		
	2	空間の形状・自由さ							-	-	2.0	0.40			
	3.2 荷重のゆとり								-	-	3.0	0.50			
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-			
	1	空調配管の更新性							-	3.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性							-	3.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性							-	3.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性							-	3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性							-	3.0	0.20	-	-			
6	バックアップスペースの確保							-	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)											-	0.30	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出				G	W			H	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮				G					-	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮									-	2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上									-	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上				G	W			H	-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー											-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制					W			H	断熱等性能等級4	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用					W			H	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化					W			H	BEI=0.64	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用									-	3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価									-	-	-	-	-	
	4.1	モニタリング				W			H	-	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制				W			H	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価									-	3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング				W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制				W			H	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル											-	0.30	-	-	2.7
1	水資源保護					W	R			-	3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水									-	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									-	3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無								-	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無								-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減									-	2.6	0.60	-	-	2.6
	2.1 材料使用量の削減					W	R			-	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W	R			-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W	R			-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W	R			-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W	R			-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W	R			LGS下地を採用	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避									-	3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用									-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避									-	3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤				W				-	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)				W				-	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒				W				-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境											-	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮					W				ライフサイクルCO2排出率68%	4.2	0.33	-	-	4.2
2	地域環境への配慮									-	2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止									-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制									-	2.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減					R			-	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制					R			-	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制					R			-	2.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制					R			-	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮									-	3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止									-	3.0	0.40	-	-	
	1	騒音								-	3.0	1.00	-	-	
	2	振動								-	-	-	-	-	
	3	悪臭								-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制									-	3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制								-	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制								-	1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制								-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制									-	4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策								光害抑制に配慮し、広告物照明を不使用	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		-	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		-	-	-	1.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	2.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -

住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -

昼光率 2.8%

自然換気有効開口比 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ / 人 病床 .0㎡ / 床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 30.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 2.92 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 58.9%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 38% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 36% 水平投影面積率 3% 地表面対策面積率 13% 舗装面積率 0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 日射等性能等級 等級4を超える 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 0.64 住宅 0.64 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 5.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(C) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 151% | 棟間隔指標Rw 0.39

地表面対策面積率 19.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積Sb ㎡ | 越風向と直交する最大敷地幅Ws 31.6 m 基準高さHb 8.54 m

緑地 149㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡